



自動カウントフェロモントラップ を利用した発生予察

適正な防除により農作物を害虫から守るためには、害虫の発生時期や発生量を的確に把握することが必要です。

現在、害虫の発生を調査する手段として性フェロモントラップを利用しています。地域によって異なる発生消長を正確に把握するには、多数のトラップを設置し調査することが要求され、誘殺データの収集と処理に多大の労力が必要となります。

そこで、フェロモントラップに誘殺された害虫を高い精度で自動的に計数し、その結果を記録するとともに、遠隔地にあるパソコンに送信するシステムの構築を目指し、数年前から国、県、メカ等が協力してこの開発に取り組んできました。

サツマイモや野菜の害虫であるハスモンヨトウについて構築システムの実用性を確認したので紹介します。



自動カウント式フェロモントラップ



計数・記憶および通信装置

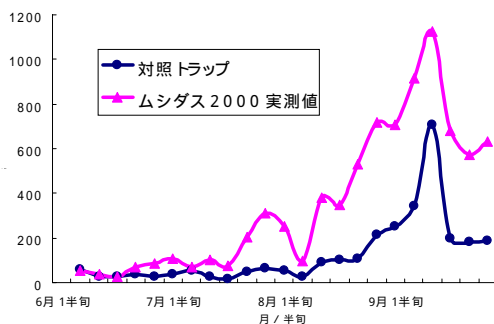


図 1 ムシダスと対照トラップの発生消長の比較

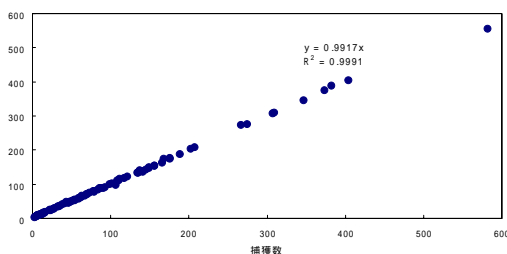


図 2 ムシダスの捕獲数と自動計数値の相関関係

サンケイ化学製の自動計数機能付き昆虫殺虫装置（ムシダス）は、対照の武田式乾式トラップより捕獲数が多く、発蛾のピークも同じ時期に観察できました。

捕獲数と自動計数値の誤差も殆ど認められませんでした。通信装置はメカ-のサ-バ-を経由して研究所内のパソコンにデータを取り込むことが可能でJPPネットを通じて全国的な比較ができるようになっています。

本装置は、ハスモンヨトウ以外にシロイチモジヨトウ等数種の害虫で実用性が確認され、改良が加えられています。価格は95万円と高価ですが、本装置を県内各地に設置することで高精度で迅速な予察情報の提供が可能になると考えられます。

問い合わせ先

徳島県立農林水産総合技術支援センター 農業研究所 病虫害担当

TEL (0883) 24-2217

FAX (0883) 24-2305

<http://www.green.pref.tokushima.jp/nogyo>